

第5回全国合気道指導者研修会



第5回全国合気道指導者研修会（主催＝日本武道館、合気会、後援＝スポーツ庁）が12月8～10日の3日間、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）で、特別講師・講師・助講師計10名、参加者75名を得て開催された。この研修会は、日本全国で合気道を指導する中学校・高等学校の教員及び社会体育指導者を対象に、学校教育における合気道の指導法を中心に据えて実技と講義を行い、中・高等学校における合気道指導の充実に資することを目的として行われた。

◆1日目（12月8日）

開講式では、植芝^{もりてら}守央合気会理事長が主催者挨拶に立ち、「本研修会は、会を重ねるごとに充実してきております。合気道の中学校武道授業採用校は46校で、全体数からすると非常に少ない状況です。しかしながら、次期学習指導要領で、今までその他の種目とされていた合気道が明記されることになりました。これにより、今後、合気道授業を選択する中学校が増えていくと思います。本研修会で合気道を専門としない先生は、是非とも合気道を理解していただくと同時に、地域指導者の方は、中学校から外部指導者等で要請があった場合に、対応できる形をとれるよう心がけてほしいと思います」と述べた。

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が挨拶を行い、「中学校武道必修化も6年が経過し、いよいよ内容の充実が問われてくる段階です。合気道の中学校武道授業採用はまだ46校ということでは

が、合気道は国内外ともに愛好者・修業者が増えているということで、素晴らしい方向に向かっていきます。この力を是非とも中学校武道必修化でも活かしていただきたいと思います。武道は、指導者の一挙手一投足が教科書です。指導者がどのような力量、指導力を持つか、身体で示範するだけでなく、言葉で生徒を導く力も必要です。指導者の力量が、合気道の将来を決定すると言って良いと思います。合気道が中学生に益々喜んで学習してもらえるよう、研修を積まれることを期待します」と激励した。

開講式終了後、植芝守央特別講師による「合気道とは」の講義が行われた。講演では、はじめに合気道の紹介DVDを視聴し、開祖植芝盛平翁の生前の姿、植芝吉祥丸第2代道主の稽古風景、自身が演武する第43回全日本合気道演武大会の映像や、約3,000人が集まったフランス講習会の映像が上映された。続いて、合気道の理念と技法を、実技を交えながら解説した後、まとめとして合気道の歴史と今後の方向性について解説。最後に、和歌山県の田辺市立明洋中学校で合気道の授業を受けた女子生徒の感想文を紹介し、「しっかり授業を行えば、合気道を本当に理解してもらえるかと確信しています」と結んだ。

休憩を挟み、川城健講師による「体育授業における合気道の指導について」の講義が行われた。文部科学省生涯スポーツ課が取り組んでいる「国民誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指す」という指針を紹介し、「学校体育では、生涯スポーツ

に繋がる授業を行うべきである」とした。また、『武道指導における専門家とは何か』という問いかけをすると、ある人は有段者、ある人は3段以上、ある人は学生時代に選手経験があること、ある人は道場で教えるだけの力量があること、と回答する。即ち、専門家という言葉の捉え方は、それぞれ異なる」とした上で、「体育授業における専門家とは、授業づくりの専門家である。生涯スポーツに繋がる体育授業を計画し、実践できる者、体育授業をマネジメントできる者が体育教員である」と論説した。

◆2日目（12月9日）

中学校合気道指導法班（34名）と全国合気道指導者研修班（41名）に分かれて研修が行われた。中学校指導法班では、日野皓正講師が実技を行い、はじめに後ろ受身を練習した後、2人1組で「片手取りすみおと角落し」「相半身片手取り小手返し」「呼吸法（座法）」「逆半身片手取り四方投げ（裏）」「正面打ちだいいっきょう第一教（表）」を行った。基本動作である「構え（相半身、逆半身）」、体さばきの「送り足、歩み足、転回足、転換足」は技の中で解説した。投げる際「取は、受を投げつけることをせず、受が受身をとれるタイミングになるまで待つ。受は、身体が崩れたら、自分のタイミングで受身をとる」等の学校授業における技の指導ポイントを示した。また、指導上の工夫として、畳に黒と白のテープを貼って、受と取の立つ位置を明確にした。最後に、遊びの要素を取り入れた指導方法とし、ボールを使った後ろ受身の練習を紹介した。後ろ受身をとる生徒は、他の生徒から投げられたボールをキャッチしたときに、その場で後ろ受身をとることをルールとし、「ボールをキャッチすると後ろ受身をとるという動作が、相手から力を加えられると後ろ受身をとるという動作に繋がる」とした。

全国合気道指導者研修班では、森智洋講師が「ホームページの作成と維持に関するガイドライン」として、都道府県連盟ホームページについて講義を行った。合気会と東京都合気道連盟のホームページ作成に関わっている森講師は、都道府県合気道連盟所属の参加者に対し、「連盟は公的な側面が強いので、不特定多数がアクセスできるホームページを必ず持ってください」と述べた。次に、実際のホームペー

ジを提示しながら、作成方法の例等を紹介した。併せて「近年では、ホームページを公開しているだけでは広報にならない」とし、SNSによる広報についても教示した。

午後は、坂本静男講師が安全指導の立場から「中高年に対する運動指導の留意点」と題して講義を行った。講義では、主にスポーツに関連する突然死について解説した。様々な研究データを元に、睡眠や入浴中などの日常生活と比較して、スポーツ中の突然死発症危険率が非常に高いことや、年齢が上がるに連れ、その危険性がさらに高まること等を指摘した。また、「突然死を発症した人は、予兆として、胸痛や狭心痛、疲労感等、日頃から何らかの自覚症状を訴えており、その自覚症状について、日頃から検査や治療等をしていれば、突然死自体は防げた可能性がある」と解説した。

休憩を挟み、日本武道協議会刊『中学校武道必修化指導書』付属DVD「武道編」を視聴した。その後、金澤威講師が全参加者を対象に、大道場で中学校武道指導法の実技研修を行った。午前中の中学校指導法班で行った技を復習し、指導のポイントをさらに深く教示した。

◆3日目（12月10日）

林典夫講師が進行役を務め、はじめに日野講師が、東京都立江北高校での授業視察と、新潟県加茂市が行っている合同授業の合気道指導について報告した。続いて、靱山直樹仙台市高森中学校教諭と福田豊仙台市立生田中学校教諭による合気道授業の実践例発表が行われた。いずれも、合気道授業採用の理由、対象学年、授業計画等を説明した。靱山教諭は、授業展開上の留意点とし、「技の完成は2人で作り上げるもの」ということを最重要項目として授業を行っていると発表した。福田教諭は、技の名称を覚えさせるため、「相半身片手取り角落とし」であれば「相半身は『構え』、片手取りは『攻撃』、角落としは『技』の名称である」と説明していると発表した。

終了後に閉講式が行われ、主催者挨拶として植芝みつてる 充央 合気会常務理事が「我々と皆様がいかに手を取り合って活動していくことが、今後の合気道の発展に繋がると思います」と締めくくり、研修会の全日程を終えた。